

日本語学習サポート

日本学生海外移住連盟（学移連）OB会西日本支部などは、近江八幡市のブラジル人学校「日本ラチーノ学院」で、生徒

近江八幡

に日本語指導をするボランティア活動を6月から始める。日本語能力を向上させ、日本での進学や就職の道を開く。

ブラジル人学校で学移連OB会



授業を見学する学移連OB会西日本支部と京都外国語大校友会のメンバーたち（近江八幡市出町・日本ラチーノ学院）

今月から 進学や就職 道開く

ボランティア活動は西日本支部と京都外国語大校友会のメンバー7、8人が日本語指導助手となり、学院で小中高校生に週2回ある「日本語」の授業を手伝う。習得が遅れている生徒に個別指導などをする。

学院は幼稚園児から高校生まで南米の日系人約200人が学ぶ。学院や家庭ではポルトガル語を主に使うため、高校卒業時点でも日本語が不自由な生徒が多く、日本での大進学が難しく、就職先も限られている。

学移連は海外移住を目指す全国の大学生の集まりとして1955〜85年に活動した。OB会西日本支部は京都外国語大などの卒業生で2011年に結成。支部メンバーが学院の事情を知り、支援することにした。

5月31日には支部と校友会の9人が学院の授業を見学した。西日本支部の引地正之支部長（70）は「中高生の指導に力を入れ、日本の大学に進む道を開いてあげたい」と話している。（八幡一男）